

－ 主 旨 －

私たち、社会福祉法人幡多福祉会の職員には、運営理念に沿った役割と使命を自覚した行動が求められます。

この行動規範は、こうした職員のあるべき姿を明文化し、利用者の思いを感じ取り自らの行動を見直すために、職員相互で日々確認しあうためのものです。

－ 経 過 －

2013年6月、「求められる職務行動規範」作成に向けて各部署から選出された10名のプロジェクトチームを編成しました。そして全職員を対象に「求められる職務行動作成プロジェクト」についての説明会を行い、「幡多福祉会職員に求められる職務行動に関するアンケート」を実施しました。

2013年8月、アンケートで寄せられた「求められる職務行動」をプロジェクトメンバーで絞り込む作業を開始、プロジェクトは2014年2月まで6回にわたり開催され、幡多福祉会の職員として大切にしたい思い・行動を最終的に4つの大項目に集約しました。

この職務行動は現場の職員によって作り出された、幡多福祉会職員として基本理念に沿った役割と使命を自覚し、行動するための基本的な行動規範です。

全ての職員が、自らの職務を振り返ったり、新人の教育に活用されることを期待しています。

「求められる職務行動」プロジェクト

看護部	(看護師 2名・生活支援員 2名)
診療部	(理学療法士 1名・栄養士 1名)
在宅支援部	(生活支援員 1名 保育士 1名)
総務部	(事務員 2名)

求められる職務行動規範



法人の運営理念

1. 私たちは、利用者の人格を重んじ、如何に障害が重くとも人としての成長・発達の可能性を信じ、その実現に努めます。
2. 私たちは、家族的雰囲気大切に、笑顔を絶やさず、日々明るい生活を利用者と共に過ごします。
3. 私たちは、第三者・利用者の心の声に、いつも謙虚に耳を傾け、日々の業務改善と資質の向上に努めます。
4. 私たちは、この施設を地域の福祉資源として活かし、地域の発展に努めます。

法人の目的

この社会福祉法人は、医療や療育を必要とする障がい児者に対して、人権擁護と個人の尊厳を根底に置き、その持てる専門的医療や機能訓練、療育、合わせて必要な障害サービスを提供、発達を保障、安全と安心した生活を確立し、障がいを持つ方も持たない方も安心して暮らせる地域社会の実現に寄与していくことを目的として、社会福祉事業を行う。

(社会福祉法人幡多福祉会定款第1条 目的より)

求められる職務行動

～職員全員に持ち続けて欲しい心の在り方～

理念を中心にして

私たちは、働く場を“利用者の家”であると自覚し、利用者一人ひとりの人格・気持ちを尊重し、笑顔とともに明るい生活の場になるよう実践します。

法人理念とは、たどり着く場所であると同時に、さらに上質な水準を目指すものであります。私たちの幡多福祉会には4つの柱となる理念があり、それらは職員全員が持ち続けて欲しい心のあり方「幡多希望の家職員としての自覚」を示すものです。

職員皆が協力してこの実現を継続していけるよう、常に利用者・家族そして周囲の気持ちや声を聴き、それに応える積極的な姿勢で日々を送ることが求められます。

幡多福祉会の職員は、家族的雰囲気大切に、利用者が明るく楽しい生活を送られるよう努めましょう。

プロの職業人として

- ①目の前の人に対し、感謝の気持ちで心のこもった挨拶・対応をします。
- ②自らの気づきを確実な行動に結びつけ、明るい職場環境を作ることで、利用者の安心・安全な生活を支えています。

職員には、「第三者・利用者の心の声に、いつも謙虚に耳を傾け、日々の業務改善と資質の向上に努める」(運営理念)ことが求められています。

利用者の生活は職員一人の力だけでは継続できないため、希望の家では“チームで仕事を行う”事と、“様々な基本的ルールを守りながら、職員一人ひとりの個性も認め合って利用者支援を進める”事が求められます。

例えば、仕事の中では報告・連絡・相談をしっかり行うことが大切です。「起こった事実や自分が気づいたことをまとめ、それを上司・同僚に伝える(報告)、今起こっていることを速やかに伝える(連絡)、それらに自分の考え・アイデアを加えて伝える(相談)」を日常的に行なうことは、「職種を超えて協力して働く職場」を作っていくことであり、それは利用者の安全を確保し、利用者の成長・発達にもつながっていきます。「皆で知恵を出し合いながら一つのことに取り組む(協働)」、「前の人の仕事を自分が引き継ぎ、自分の仕事の後にはそれを引き継ぐ職員がいる(連携)」を自覚しながら、仕事を進めていきましょう。

チームワーク

- ①スタッフはお互いの仕事に尊敬の気持ちと思いやりの心を持ち、助け合って仕事を進めます。
- ②自分の仕事の質を高め、利用者・家族・同僚スタッフにとって価値あるものにしていきます。

利用者・家族に価値ある支援は、質の高いチームワークとともに実現可能になります。そこには3つの段階があります。

「メンバー同士が信頼に基づいた関係の中で仕事を進める状態」(初段階)、「チームの取り組む課題を理解し、目配り・気配りを怠らず自分の気づきを皆に知らせながら積極的・協力的に仕事に取り組んでいる状態」(中段階)、「職種を超えて利用者の生活の質をさらに高めるアイデアを話し合い、実行できる状態」(高段階)の3つです。プロの集団として目指すべきチームワークはこの高段階であると言えます。

初段階の状態を作るのがチームワークの基本であり、職員がメンバーの仕事に尊敬の気持ちを持つことが前提となります。その上で、中段階を目指しましょう。気づいたことをメンバーに伝える、メンバーはその発言に耳を傾けることが大切です。そのようなチームワークを築きあげた上で目指するのが高段階となります。

希望の家を支えるプロ集団

- ①利用者一人ひとりに合った支援の実践ができる集団を目指します。
- ②常に学ぶ姿勢を持って仕事に取り組み、新しい考えを取り入れ、挑戦できるように専門性を磨いていきます。

新しい知識・技術に関心を寄せ、質の高い支援ができるよう常に向上心を持ち積極的に学び、取り組んで行く姿勢が必要です。

求められる利用者ニーズに答え続けるには、自分の持つ専門性を高めていくことが望まれ、それは不断の学習と経験の中で培われていくものです。利用者・家族と同じ目線に立ち理解と協力を得ながら、チームの中で共有し実践していける集団になりましょう。

プロフェッショナルの集団とは、「約束を守り、それができる準備を徹底して行い、新しい目標を立てることができ、自分に必要な能力を身に付けて行く個人の集まり」のことをいいます。